

おぢやエネルギー通信

第1号



小千谷市は、再生可能エネルギーを有効利用して、地球温暖化の抑制や地域の振興につなげることを目指しています。今年度は、今後の取組の指針となる「小千谷市エネルギービジョン」を策定します。この通信では、現在の策定状況をお知らせします。

■市内の再生可能エネルギーの有効利用に向けた検討会を開催しました

8月27日（火）に「第1回小千谷市エネルギービジョン策定委員会」を開催しました。委員会のメンバーは、学識者、エネルギー事業者、市内団体代表者などで構成されています。



<第1回策定委員会>

小千谷市では、エネルギー資源の中でも**太陽光**、**雪冷熱**、**地中熱**などが活用できると考えられます。今後は、これらを利用した重点プロジェクトの実施に向けて協議を重ねます。

■冬に降り積もる雪をエネルギー資源に活用した事例のご紹介 **雪冷熱**

～「雪室」による地域産品のブランド化・観光拠点の創出～

雪冷熱は、「雪室」によって雪のもつ冷たさを建物の冷房や酒・農産物の貯蔵に利用するエネルギーです。

市内では、高の井酒造(株)が日本で初めて雪中貯蔵酒を販売し、スノーランド池ヶ原では多くの方が雪中貯蔵を利用しています。近年は住宅の冷房にも使われるようになりました。

南魚沼市の八海醸造(株)が運営する「魚沼の里」では、雪室を活用して、地域産品をブランド化して販売しています。さらに、この雪室の仕組みを、見学ツアーを通して一般に公開しており、地域の観光拠点として注目を集めています。



日本酒用の貯蔵タンク

約1,000トンの雪

<魚沼の里 雪中貯蔵庫>



雪中貯蔵庫からの送風機

<雪中貯蔵庫の冷気を活用した売店>

■寒冷地で有望な地中熱利用とは？ **地中熱**

地中の温度は一年を通して安定しており、気温と比べて夏季は低く、冬季は高くなる特長があり、特に、新潟県のような寒冷地では冬季の温度差が大きくなります。

この温度差エネルギーである地中熱を冷・暖房や給湯に利用することで、化石燃料の消費が抑制され、CO₂削減効果が期待されます。



出典：地中熱利用促進協会資料

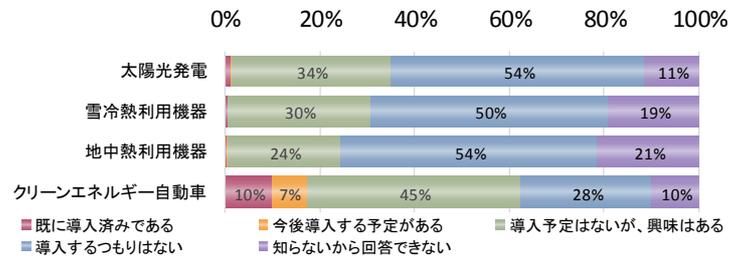
再生可能エネルギーに関するアンケート調査を実施しました

市民アンケートの結果

再生可能エネルギー（以下、「再エネ」）に対する市民の意識や、設備導入状況、市の取組に対する意向などを把握するため、18歳以上の市民2,000人を対象にアンケート調査を実施し、945人の方から回答をいただきました。（回答率47.3%）

設問1 再エネへの関心、導入状況

本市で有望な3つのエネルギーのうち「太陽光発電」への関心が最も高く、次いで「雪冷熱利用」「地中熱利用」となっています。また、クリーンエネルギー自動車への関心は高く、既に購入済みとの回答が10%を占めています。



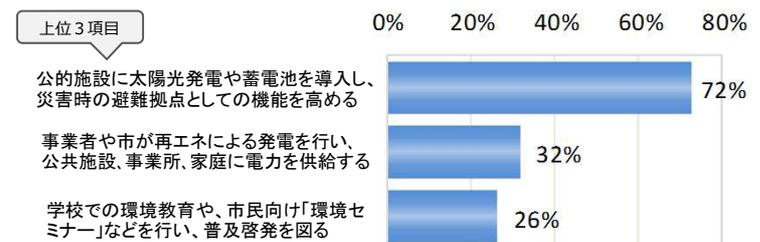
設問2 再エネの導入における課題

設備導入の課題として多くの方が「費用」や「手間」がかかることをあげています。また、相談先がわからず、情報を入手できないことも課題となっています。



設問3 再エネ利用の進め方

再エネに対し、災害時のエネルギーとしての機能が期待されています。また、「事業者や市による再エネ電力の供給」や「環境教育・普及啓発」を望む意見も多数あります。



事業者アンケートの結果

小千谷商工会議所加盟の市内事業所757社を対象にアンケートを実施し、186社から回答をいただきました。（回答率24.6%）

設問1 再エネ等への関心、導入状況

約6割の事業者が再エネ設備・機器導入への関心を示しています。その中でも「ハイブリッド自動車」への関心が高く、次いで、「太陽光発電」が高い状況となっています。



設問2 市と事業者との連携

連携すべき取組としては、半数の事業者が「再エネ設備・機器の導入、非常用電源設備の確保」と回答しています。また、雪冷熱を利用した商品のブランド化に期待する声もあります。

